JTB　広域代表からのメッセージ

JTB旅ホ連、地域と共に

JTB旅ホ連特集

西日本

宿泊施設と対話、共創

取締役兼常務執行役員　ツーリズム事業本部
西日本エリア広域代表　大阪IR事業担当
森口　浩紀氏

昨年の大阪・関西万博を契機に、関西の観光は新たな局面に入っている。関西国際空港の発着枠拡大や神戸空港の国際線対応、さらに2030年の大阪IR開業を見据え、国際観光拠点としての基盤は着実に整いつつある。これらは一過性ではなく、西日本全体の観光構造を中長期的に変えていく流れである。それは、滞在日数を増やすことに加え、ゲートウェイ機能として、日本各地への人流を生み出すことにある。特にインバウンドは都市部に集中する傾向があり、そこから周遊へどう広げていくかが重要なテーマである。

旅行の体験価値の中心にあるのは宿泊であり、滞在型・周遊型需要の創出につなげていきたい。

西日本エリアには、まだまだ生かしきれていない地域の魅力と可能性が数多くある。大阪IRや国際空港を起点とした人流を宿泊へ、そして各地へとつなぎ、「面」で価値を創っていく。宿泊施設の皆さまとともに対話と共創を重ねながら、35年に向けた持続可能な観光のあり方を西日本から実現していきたい。

四国

「四国はひとつ」で誘客

ツーリズム事業本部
四国エリア広域代表　兼高松支店長
濵田　充氏

四国は、豊かな自然と歴史、文化が息づく地域だ。海・山・島が近接する地理的特性の中で、遍路文化や祭り、食、暮らしが今も息づき、訪れる人に多層的な体験価値を提供している。「四国はひとつ」のかけ声のもと、県域を越えた一体的な魅力発信が進んでいる点も大きな特長だ。

近年は、国際的な認証団体「Green Destinations」による評価など、地域の自然や文化を守りながら観光振興を進める持続可能な取り組みが世界的に注目されている。阿波踊り、四国こんぴら歌舞伎大芝居、3年に一度開催される瀬戸内国際芸術祭、道後温泉DOGO ART、よさこい祭りなど、各県が誇る文化資源やイベントが年間を通じて展開され、訪れる人々に感動と活力を与えている。

地域誘客では、スポーツ・イベントを軸とした来訪動機の創出と周遊促進に注力している。「サイクリングしまなみ2026」や「よさこい高知文化祭2026」をはじめとした大型イベントを契機に前後泊需要を喚起するとともに、世界で最も美しいアリーナ2025「ベルサイユ賞（最優秀賞）」を受賞したあなぶきアリーナ香川を拠点に、スポーツやコンサートなどの開催を通じて交流人口の拡大を図る。

さらに、高知県出身者が主人公となる28年に放送予定の大河ドラマ「ジョン万」をフックとした誘客も見据え、スポーツ・文化・メディアを組み合わせた広域周遊を促進し、四国一体での誘客拡大を図っていく。

JTB旅ホ連会員の皆さまとともに誘客施策を推進し四国全体の観光需要の底上げを図っていく考えだ。

四国は多様な魅力を有しながら、まだその真価が十分に伝わり切っていない地域だと感じている。一方で、遍路文化の継承や大型イベントの展開は、四国の可能性を大きく押し広げている。本年は、27年上期「日本の旬　山陰山陽四国」において重要な仕込みの1年となる。「めぐるほどに、好きになる」四国の実現に向け、〝四国はひとつ〟のもと、地域一体となって魅力を磨き上げ、誘客拡大に取り組んでいく。

中国

潜在的な魅力 最大化

ツーリズム事業本部
中国エリア広域代表　兼広島支店長
西尾　一輝氏

中国エリアは、瀬戸内海や山陰の豊かな自然、世界遺産をはじめとする歴史的・文化的資源など、多様性に満ちた観光資源を有している。しかし、現在の観光産業は単なる需要回復にとどまらず、物価高や人手不足などの構造的課題に対応しながら、より質の高い体験と持続可能性を追求する新たなステージにある。

こうした環境下で、宿泊増売に向けた最優先課題は「滞在そのものが価値となる高付加価値なコンテンツの開発」である。特に、中国エリアの観光をけん引する広島・宮島・呉の3地域を重点戦略エリアに指定し、各地の魅力を「テーマ」でつなぐ周遊軸の構築を推進している。

例えば、呉エリアの歴史資源を活用したアドベンチャーツーリズム（AT）や、瀬戸内の多島美を堪能する海上ルートの整備、地域ならではの食事業開発などがその一環だ。

これらの拠点を線と面で結び、回遊性を高める仕組みを作ることで、各地域における周遊観光の型を創り、地域の宿泊施設への確かな送客と増売へと結びつけていく。

こうした取り組みは、2027年度に予定されている全社キャンペーン「日本の旬　山陰・山陽・四国」を見据えた基盤整備でもある。キャンペーンという契機を生かしつつも、その目的はあくまで地域の持続的な誘客の仕組みを構築することにある。DMOや自治体、そしてJTB旅ホ連会員の皆さまと官民一体となり、エリアを越えて新しい「旬」を掘り起こす取り組みを加速させたい。

広域代表としての私の使命は、JTBの強みを地域へ還元し、ともに稼ぐ基盤を確立することだ。旅ホ連会員の皆さまとの強固なパートナーシップのもと、中国エリアの潜在的な魅力を流通の最適化によって最大化し、宿泊仕入における「正のサイクル」をともに実現したい。変化を恐れず、情熱を持って地域の確かな未来を切り拓く決意である。

沖縄

「唯一無二」の観光創出

沖縄JTB　代表取締役　社長執行役員
濱口　剛氏

沖縄県は2025年度、入域観光客数が約1093万人（国内799万人、訪日外国人旅行者294万人）と過去最高を更新し、観光は一つの転換点にある。量的成長を基盤としつつ、今後はより一層、質的成長が求められるステージにきている。

今秋は、沖縄を象徴する「首里城正殿」の完成が予定され、国内・海外から多くの観光客でにぎわうことが予想される。そこで当社は各所と連携し、正殿入場の時間予約制導入などDXを活用した混雑緩和策を推進している。来場者の安全確保に加え、来訪時期の平準化を図り、地域への負担軽減につなげる狙いである。

あわせて、交通渋滞や違法駐車の課題に対し、公共交通と入場・宿泊を組み合わせた周遊型商品の造成を通じた分散型観光を促進している。これにより、質の高い観光体験の創出とオーバーツーリズムの緩和を、地域と連携しながら実現していく。今後、現場の課題をAIとアナログのハイブリッドアプローチで解消していく手法についても、さまざまな場面へ展開していきたい。

また中長期的目線で当社が特に重要視しているのは、世界五大長寿地域「ブルーゾーン」に象徴される長寿・健康、豊かな自然、独自の歴史文化といった沖縄のありのままの資源を生かした観光体験の磨き上げである。食・暮らし、信仰、人とのつながりといった本質的な価値は、国内客はもとより訪日外国人旅行者にとっても高い訴求力を持つ。これらの取り組みは、消費単価向上や滞在日数延長に寄与し、来訪者と地域の双方に豊かさをもたらす「高付加価値観光」につながっている。まさに沖縄県が目指す『世界から選ばれる持続可能な観光地』には欠かせないアイテムであると考える。

そしてこの実現には、それを担う人財の成長も欠かせない。沖縄を次のステージへ押し上げるため、地域および事業パートナーとの連携をさらに強化し、自ら価値を創造できる人財の育成に取り組み、唯一無二のOkinawa Tourismの創出を進めていく。

九州

「日本の旬 九州」で訴求

執行役員　ツーリズム事業本部
九州エリア広域代表
篠崎　和敏氏

昨年度の九州は、大阪・関西万博を起点とした長距離周遊による波及効果を期待して取り組みを開始し、次の展開に向けた課題やヒントが明確になる1年であった。九州各県とも東アジアとの直行便の復活を背景に、訪日客の延べ宿泊者数は前年比40％超と大幅に増加し、観光消費額も過去最高水準を記録するなど、九州観光は力強い成長を遂げた。上期には地震や大規模災害に関する風評が需要抑制要因となったが、万博終了後には回復基調に転じ、年間を通じて回復・拡大の1年となった。

この好調な流れの継続を目指し、今年度下期（2026年9月～翌年3月）には、JTBグループのデスティネーションキャンペーン「日本の旬　九州」を展開する。1998年から全国各地で実施してきた本キャンペーンは、「日本の魅力再発見」をテーマに、地域ごとの旬な魅力を発掘し、国内観光の活性化に貢献してきた取り組みであり、近年では訪日インバウンド旅行者も視野に入れている。

異国文化の玄関口として発展し、7県それぞれが個性豊かな自然や温泉、そして千年の歴史が育んだ美食の宝庫である九州を、「ほっと九州」というフレーズのもと訴求し、滞在型・周遊型の旅行需要の創出を目指す。

また、国際自転車競技連合（UCI）公認レース「ツール・ド・九州」は今年度で4年目を迎え、九州7県のうち6県が参画する取り組みへと発展している。世界に向けて九州の魅力を発信する貴重な機会であり、地域ブランディングの強化につながるものと期待している。さらに、九州MaaSプロジェクトも推進している。これは、全国的にも珍しい官民一体となった持続可能な公共交通の実現を目指す取り組みであり、観光分野における2次交通課題の解決にもつなげていく。

これらは九経連主導の取り組みであるが、弊社も積極的に参画し、その役割を果たすことで、「九州ならでは」のサステナブルな観光の実現に貢献するとともに、九州と全国、さらには九州と世界を結び、九州エリア全体の活性化につなげていきたい。

先人たちが誠の心で、ひとつひとつ大切に結んだご縁。
皆様とともに未来へと紡いでまいります。

城西館

〒780-0901 高知市上町2丁目5-34
TEL.088-875-0111
城西館　検索
城西館HPはこちらから

世界遺産
「明治日本の産業革命遺産」

萩城下町

松下村塾

恵美須ヶ鼻造船所跡

萩反射炉

世界遺産「萩城下町」の宿
萩城三の丸　北門屋敷
〒758－0057 山口県萩市掘内 210-12
TEL0838－22－7521　FAX0838－25－8144
http://www.hokumon.co.jp

毛利三六万石の城下町、長州・萩。
萩城からほど近い、かつて城を守る重臣たちが居を構えた萩城三の丸。
毛利屋敷跡に、北門屋敷はあります。
江戸時代からほとんど変わらない町割りと、維新前夜の面影が色濃く残る場所。
武家屋敷の風格と凛とした空気に、往時の息づかいが感じられます。
国の重要伝統的建造物群保存地区、そして世界遺産「萩城下町・旧上級武家地」であるこの場所に許された、唯一の旅館。
ようこそ北門屋敷へ。

当館表門前にも石碑がございます。

ここにしかない富士がある。

富士山を望む河口湖畔の宿
秀峰閣湖月
〒401-0304 山梨県南都留郡富士河口湖町河口 2313
TEL. 0555-76-8888　FAX. 0555-76-8940
http://www.kogetu.com/